様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21　年　3　月　31　日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007～2008
課題番号：19730194
研究課題名（和文）ＡＳＥＡＮ貿易の構造変化に関する調査研究
研究課題名（英文）　Researches on Structural Changes of the ASEAN Trade

研究代表者
宮島　良明（MIYAJIMA Yoshiaki）
東京大学・社会科学研究所・助教
研究者番号：90376632

研究成果の概要：
本研究は、2000年前後から顕著になりはじめた中国の台頭により、ASEAN諸国がどのような影響を受けたのかについて、特に貿易に着目し、詳細なデータと現地調査をもとに明らかにしようとするものである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
19 年度	900,000	0	900,000
20 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,500,000	180,000	1,680,000

研究分野：　社会科学
科研費の分科・細目：　経済学　経済政策
キーワード：　経済政策　経済発展　ASEAN 貿易　アジア貿易　企業内貿易

１．研究開始当初の背景

（1）2000 年以降の中国経済の躍進、とくに貿易の急拡大は、ASEAN 諸国を中心としたアジア地域の貿易構造を大きく変化させた。

（2）この中国の驚異的な輸出拡大に対し、経済発展の位相及び輸出品目の構成が近い ASEAN 諸国の貿易は負の影響を受けるであろうとする「中国脅威論」が、アジア経済研究者などから主張されていた。

（3）しかしながら、現実には 2000 年以降 ASEAN 諸国は貿易を拡大し続けている

（4）「競合」の中には、中国優位の「競合関係（WIN-LOSE）」だけではなく、中国と ASEAN が共に市場シェア及び輸出額を増す「競合関係（WIN-WIN）」もありうる。つまり、ASEAN 諸国と中国との「共栄」関係を新しい視点として加える必要があった。

２．研究の目的

2000 年以降の中国経済の躍進、とくに貿易の急拡大は、ASEAN 諸国を中心としたアジア地域の貿易構造を大きく変化させた。しかし、その変化についての研究では、輸出入総額の

推移、また国や地域を限定したものが主流であった。

そこで、本研究は、

①品目については HS コード 4 桁分類を用い、

②対象国についてはアジア地域（ASEAN、中国、アジア NIES、日本など）全域をカバーした、

③貿易データベースを構築し、

④それを用いて近年の貿易構造の変化について分析を行うこと

を目的とした。

３．研究の方法

（1）アジア貿易データベースの構築。

具体的には、

①アジア各国、及びアメリカ、日本、EU15 それぞれの輸出入相手国の変化（1996 -2006）、

②アジア各国の対中国貿易（「全品目」「機械・機器」「IT 関連製品」「繊維」「卑金属」「食料品」）特化係数の推移、

③世界 3 大市場（アメリカ市場、日本市場、EU15 市場）におけるアジア各国と中国との競合関係指数、

などに関して試算・整理を行った。

この成果として、『中国の台頭と東アジア域内貿易－*World Trade Atlas*（1996 -2006）の分析から』（2008 年 3 月、東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点、研究シリーズ No. 1、大泉啓一郎氏との共著、234 頁）を刊行した。

（2）最新の ASEAN 貿易の動向を把握するため、タイ・バンコクにおいて、ASEAN 貿易関連資料の収集、関連機関・企業での聞き取り調査など、現地調査を実施した。

４．研究成果

（1）2000 年以降、東アジア諸国（ASEAN 諸国を含む）と中国との貿易は緊密さを増し、相互に重要な貿易パートナーとなりつつある。（図表 1 は、「貿易相手国としての中国の順位」を表している。）

（2）IT 関連製品を中心とした「機械・機器」類の相互貿易の深化が、東アジア地域の域内貿易を活発化させていることがわかった。換言すれば、電子部品などの輸出入の増大は、いわゆる「水平分業」型の貿易が域内で進展していることを示している。（図表 2 は、東アジア地域の対中国貿易における品目ごとの「水平分業」指数を示したものである。）

図表1　貿易相手国としての中国の順位

		1990	1998	2002	2006
日本	輸出	10	4	2	2
	輸入	4	2	1	1
韓国	輸出	-	3	2	1
	輸入	-	3	3	2
台湾	輸出	n.a	-	4	1
	輸入	n.a	6	3	2
香港	輸出	1	1	1	1
	輸入	1	1	1	1
シンガポール	輸出	-	8	5	4
	輸入	7	4	4	3
タイ	輸出	-	8	5	3
	輸入	7	7	3	2
マレーシア	輸出	-	10	5	4
	輸入	-	8	4	3
インドネシア	輸出	6	6	5	4
	輸入	9	9	4	2
フィリピン	輸出	-	-	9	4
	輸入	-	7	8	5
アメリカ	輸出	-	-	7	4
	輸入	8	4	3	2
EU15	輸出	-	8	5	4
	輸入	6	4	2	1

＊1位、2位、3位をそれぞれ黄緑色、黄色、薄い黄色でマーキングした。
（注1）「-」は中国が上位10位に入っていないことを示す。
（注2）台湾の1990年データには、中国が含まれない。
（出所）宮島良明、大泉啓一郎[2008]『中国の台頭と東アジア域内貿易：World Trade Atlas (1996-2006) の分析から』東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点・研究シリーズ No. 1、の第II部第2章（37ページ～59ページ）より宮島作成。

図表2　対中国貿易における水平貿易指数の変化

（単位：%）

	全品目		機械・機器		IT製品	
	1998	2006	1998	2006	1998	2006
日本	25.5	31.8	56.3	59.4	76.2	67.5
韓国	23.6	**43.4**	51.1	**65.2**	76.4	81.3
台湾	8.9	**41.0**	10.0	**57.0**	8.3	**77.6**
香港	42.4	**63.1**	65.6	71.6	86.0	70.1
シンガポール	54.2	62.2	68.2	71.6	76.2	76.3
タイ	39.1	38.6	72.2	67.0	80.6	72.1
マレーシア	21.6	**55.5**	45.5	**77.8**	48.1	**89.0**
インドネシア	5.8	**26.9**	11.3	**33.7**	8.3	**66.8**
フィリピン	11.1	**23.9**	23.1	27.2	24.0	30.3
アメリカ	7.9	10.8	13.4	15.5	13.3	12.6
EU	18.8	19.0	28.9	24.5	41.1	13.0

	繊維		卑金属		食料品	
	1998	2006	1998	2006	1998	2006
日本	5.8	6.9	19.5	18.3	1.9	7.1
韓国	16.9	21.5	16.4	24.8	31.2	10.8
台湾	22.7	7.1	2.4	**21.5**	2.3	**37.1**
香港	50.8	**64.7**	31.3	**49.9**	37.6	36.5
シンガポール	4.3	1.3	18.9	27.5	10.2	7.4
タイ	24.1	27.0	5.7	12.8	3.7	9.9
マレーシア	21.8	14.7	13.9	21.8	0.6	**12.4**
インドネシア	26.7	**47.2**	18.5	15.9	0.3	6.4
フィリピン	9.5	15.0	2.6	3.2	0.5	9.1
アメリカ	1.5	2.6	5.7	3.5	12.5	**27.4**
EU	2.4	4.0	20.8	19.6	14.8	14.0

*1水平貿易に分類される割合が50%以上の場合、赤色でマーキングしている。
*2水平貿易に分類される割合が1998年から2006年の間に10%以上増加したところを太字で示している。
（注1）シンガポールは1999年と2006年の数値。
（出所）宮島良明、大泉啓一郎[2008]『中国の台頭と東アジア域内貿易：World Trade Atlas (1996-2006) の分析から』東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点・研究シリーズ No. 1、の第II部第3章（61ページ～203ページ）より宮島作成。

（3）一方、ASEAN諸国と中国との間には、いわゆる伝統的な「垂直分業」型の貿易パターンも少なからず存在している。（図表3は、2006年のタイの対中国輸出入上位10品目を表したものである。）

図表3　タイの対中国輸出入上位10品目（2006年）

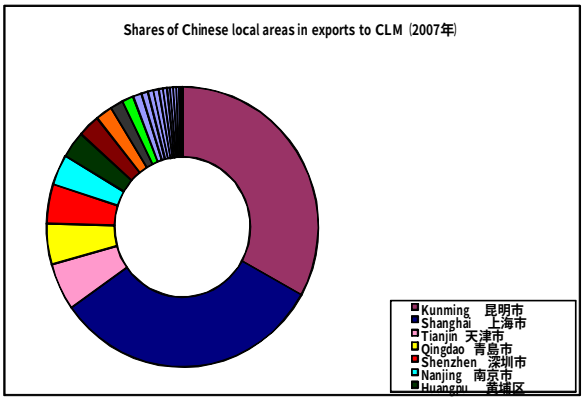
輸入			2006	
	HSコード	輸入品目	100万ドル	%
1	8473	コンピュータ関連部品	1,203	8.8
2	8525	携帯電話、デジタルカメラ	920	6.7
3	8471	コンピュータ関連部品	783	5.7
4	7207	フェロアロイ	572	4.2
5	8517	電話機など	377	2.8
6	8542	集積回路	308	2.3
7	8504	整流器など	272	2.0
8	8529	テレビなどの部品	265	1.9
9	7106	銀	254	1.9
10	8544	ケーブル	215	1.6
その他			8,474	62.1
合計			13,642	100.0

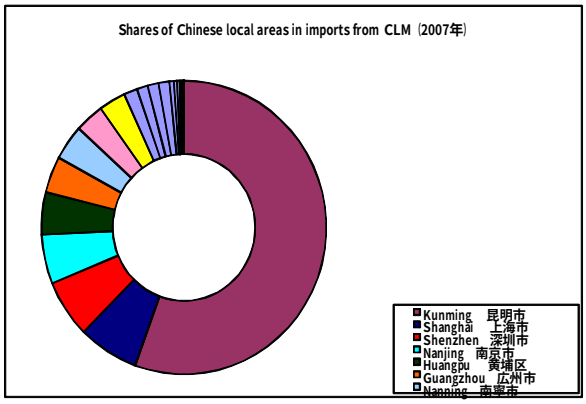
輸出			2006	
	HSコード	輸出品目	100万ドル	%
1	8471	コンピュータ関連部品	1,800	15.3
2	4001	天然ゴム	1,362	11.5
3	2917	ポリカルボン酸など	902	7.6
4	8542	集積回路	659	5.6
5	8473	コンピュータ関連部品	649	5.5
6	2709	石油(原油)	563	4.8
7	0714	カッサバ芋など	417	3.5
8	3901	エチレンなど	302	2.6
9	1006	米	280	2.4
10	3907	ポリエステルなど	234	2.0
その他			4,630	39.2
合計			11,797	100.0

(注1) 品目名については、輸出統計品目表編纂委員会[2006]を参考にした。
(注2) 携帯電話は、2007年より8517項に分類されている。
(出所) World Trade Atlas より宮島作成。

（4）さらに、ASEAN 諸国と中国との貿易を考える場合には、中国南部地域（たとえば、雲南省の昆明、広西チワン族自治区の南寧など）とメコン川流域諸国との「国境貿易」にも注目していく必要がある、ということがわかってきた。（図表 4 は、中国の対 CLM（カンボジア、ラオス、ミャンマー）貿易に関して、地域（都市）別の割合を円グラフに表したものである。昆明市の割合が高いことがわかる。）

図表4　中国の対CLM貿易: 地域（都市）別の割合（2007年）





(出所) World Trade Atlasより宮島作成。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

①宮島良明、大泉啓一郎「ASEAN4 と中国の競合関係――『アジア化するアジア経済』の深化過程を探る」『東京大学社会科学研究所 Discussion Paper Series』J-156、1-13 頁、2007 年、査読無し。

②宮島良明「今、タイと中国の貿易に何が起こっているか？――貿易データからわかること」『所報（盤谷（バンコク）日本人商工会議所）』548 号、29-36 頁、2007 年、査読無し。

③宮島良明「中国の省・地域と CLMV の貿易関係: World Trade Atlas 2007 の分析から」末廣昭・宮島良明・大泉啓一郎・助川成也・青木まき・ソンポップ・マーナランサン『大メコン圏（GMS）を中国から捉えなおす』東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点・研究シリーズ No. 3、93-112 頁、2009 年、査読無し。

〔学会発表〕（計　2　件）

①宮島良明、大泉啓一郎「ASEAN4 と中国の競合関係―『アジア化するアジア経済』の深化過程を探る」日本国際経済学会第 66 回全国大会、2007 年 10 月 8 日、早稲田大学。

②宮島良明「東アジア地域の新しい貿易構造： 中国の台頭と域内貿易の拡大」アジア政経学会2008年度全国大会、2008年10月12日、神戸学院大学。

〔図書〕（計　1　件）

①宮島良明、大泉啓一郎『中国の台頭と東アジア域内貿易――*World Trade Atlas* (1996-2006)の分析から』東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点・研究シリーズ NO. 1、234 ページ、2008 年。

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/mystaff/miyajima.html

６．研究組織

(1)研究代表者
宮島　良明（MIYAJIMA Yoshiaki）
東京大学・社会科学研究所・助教
研究者番号：90376632

(2)研究分担者
なし。

(3)連携研究者
なし。